

総合的な学習の時間 学習指導案

日時：令和元年11月25日（月）6校時

児童：昭和小学校 4年3組

男子17名 女子15名 計32名

指導者：教諭 井上 祥太郎

1、単元名 「よりよいビオトープを創り上げよう」

2、単元目標

ビオトープを作った方々の思いや努力に触れ、人々の思いを知り、自分たちにできることを考え実行する中で、自分の思いや考えを伝え合い、地域や身近な自然に対してこれから自分ができることを見つけたり、判断したりすることができる。

○探求課題「身近な自然環境に触れ合えるビオトープのあるべき姿」（地域・環境）

○身に付けたい概念的知識

身近な自然環境を守っていくためには、過去に関わった人々の思いを知り、できることを行い、それを可能な限り続けること、伝えていくことが大切。

- ①宅地化が進む昭和地区の自然を残し、地域の人や子どもたちが自然に触れ合える憩いの場にしたいという思いから、地域の人や学校の教職員が努力し、ビオトープをつくったことを理解する。
- ②現在と昔のビオトープを比較し、自分たちの生活の仕方や手入れをしないことが現在のビオトープの状況（草が生い茂るなど、憩いの場になっていない状況）を作っていることを理解する。
- ③よりよいビオトープにするために自分たちにできることは何かを考え、ゴミ拾いや看板作りなどを実行することを通して、人の生活や自然の力によって元に戻ってしまうこと、自分たちだけの努力だけでは限界があることに気づき、長い年月をかけて実行していかないとビオトープが維持できないことを理解する。さらに、ビオトープの大切さや維持・管理の重要性を伝えていくことも大切だと理解する。

3、単元について

（1）教材について

昭和地区は宅地化が進み、身近で自然環境に触れ合える場所はあまりない。そんな中で、ビオトープは学校に隣接した身近な自然環境に触れ合うことができる貴重な場所である。もともとビオトープは、地域の自然環境を残し、昭和小学校の児童や地域の方々が自然に触れ合える場所を作ろうと平成17年頃、地域の方の思いで誕生した。その後、地域と学校が尽力し、池作りや植樹などを行い、全国ビオトープ奨励賞を受賞するまでになった。現在は、コケイランなどとても貴重な植物が観察できるため、3年生の総合的な学習の時間に動植物の観察を行っている。しかし、草が生い茂り、見通しが悪いため、授業以外でビオトープ内の自然に触れ合う子ども達や地域の方は少なくなっている。児童が、ビオトープがどのように作られたかを学ぶことを通して、ビオトープを作った人たちの努力

や思いを理解するとともに、現在のビオトープを見つめ直し、あるべき姿を考え、行動することができると考え、本単元を教材化した。

(2) 児童について

「今のビオトープを自慢できるか」を問う事前アンケートを取ったところ、「自慢できない」と答えた児童の方が多かった。理由を聞いたところ「草が多すぎて入っていけない。」「池がほとんど見えな。」「自然を楽しめない」と答えていた。一方、「自慢できる」と答えた児童は、「自然がいっぱい」「たくさん虫がいる。」と答えていた。

この結果から、今のビオトープは動植物が豊かな自然環境だが、自然と触れ合うことがあまりできないと捉えていることがわかった。また、ビオトープのあるべき姿が人によって異なるため、「自慢できる・できない」が二極化してしまう状況がある。

今までの総合的な学習の時間では、情報を整理・分析する際、似た情報を整理するKJ的手法、ベン図で共通点を見つける活動等を経験している。

(3) 指導観

手立て1：児童が本気になるしかけ

○児童のやりたい思いを高める単元構成

単元のねらいを達成するためには、子どもたちがビオトープについて本気になって「何とかしなくては。」「改善に向けて何かしたい。」という思いをもつことが大切である。そこで、単元を進めるにあたり以下のような場の設定を行った。

序盤・・・ビオトープの今と昔のビオトープの写真を比較し、整備されていない現状に気づくようにする。そこからビオトープへの問題意識を高め、なぜ作ったのか、何のために作ったのかを理解するために、ビオトープ作りに関わった方々（当時の教頭先生とPTA会長）をゲストティーチャーに招き、話を聞く場を設定する。

中盤・・・ゲストティーチャーから学んだことを通して、ビオトープの環境を改善するためにやってみたいことを話し合い、実行する時間を設定する。

終盤・・・これまで実行したことを振り返り、自分たちの活動だけでは、よりよいビオトープにならないことに気づき、よりよいビオトープを続けるために自分たちにできることを考える。

手立て2：子どもの思いや学びをつなぐ教師のかかわり

○学びを振り返る場の充実

探求的な学習の過程においては、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や、まとめ表現する活動は重要である。そのため活動を振り返る場面では、ビオトープをきれいにする活動の前後を比較できるように写真を提示し、学びの成果や課題を実感できるようにした。また、実行してできたこと・できなかったことを付箋に書いて情報を整理してから交流するなど、新たな課題に気づけるような場面を設定した。

4、本単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア、ビオトープのよさに気づき、ビオトープを作った人の努力や思いを理解している。	ア、ゲストティーチャーから情報を集め整理・分析し、まとめ・表現する方法を身に付けている。	ア、ビオトープの今と昔のちがいに気づき、ゲストティーチャーから様々な情報を得ようとしている。
イ、ビオトープをつくることに関わった人々の思いを知り、自分たちにできることを考え実行している。	イ、自分なりに考え実践したことを伝え合いながら、これからのビオトープについて考え、まとめ・表現をしている。	イ、よりよいビオトープにするために、自分にできることを考えて進んで取り組んだり、これからのビオトープについて考えたりしている。

5、単元計画（全27時間）

I、 ビオトープとは	課題設定 1～4	昔のビオトープと今のビオトープの写真を見て比べる。 (知ア) ◆今と昔のビオトープはどう違う？ (主ア) ・昔は草が生い茂っていないからきれいだ。 ・今は草で生い茂っている。 ◆今のビオトープは自慢できる？ ・たくさんの植物や虫たちがいるから自慢できる！ ・草がいっぱいありすぎて自然の中に入っていけないから自慢できない！ ・ビオトープがどうあるべきかわからない・・・ ・そもそもビオトープとはなんだ？ ↓ 課題設定 「ビオトープはどうあるべきなのだろう。」
	情報の 収集 5, 6	ゲストティーチャーに話を聞く。 (知ア) ゲストティーチャー①・・・ビオトープができた当時の教頭先生 ゲストティーチャー②・・・ビオトープができた当時のPTA会長 ・昔はこんなに生物がいたんだ！ ・池をみんなできれいにしていたんだ！ ・ビオトープは子供だけでなく地域の人たちのためにもあるんだ。
	整理・分析 7～10	「2人から得た情報をもとに、わかったことを整理する。」 (思ア)
	まとめ・表現 11	「わかったことをまとめて学年で交流しよう！」 (思ア) ・昔は生物がたくさんいたんだ。 ・昔はたくさんの方がビオトープにきていたことがわかった。 ・ビオトープは子ども達や地域の方が自然にふれあうための物なんだ！ 「ビオトープについて、色々知ることができたね！」 「これからどうする？」

Ⅱ、 やってみようとは	課題の設定 12、13	<p>ビオトープに行って、自分がやってみたいことを決める。(知イ)</p> <p>どんなビオトープになればいい？ そのためにできることは？</p> <p>・草を刈りたい。 ・看板を置きたい。 ・ゴミ拾いをしたい！</p> <p>みんながやりたいことの集計結果を知らせ、その中でやることを決める。</p>
	情報の収集 14、15	<p>それぞれの役割に分かれて、計画を立てる。(主イ)</p> <p>①草刈りをしたい。→ 話し合うこと「どこの草を刈るか」・・・道をつくる。 入り口付近をきれいにする。 「どのように刈るか」・・・素手で、クワで、草刈り機で 予想される協力者「用務員さん」</p> <p>②看板を置きたい。→ 話し合うこと「どこに設置するか」・・・入り口付近 「どのようにするか」・・・板や支えるものが必要。</p> <p>③ごみを拾いたい。→ 話し合うこと「どこのゴミを拾うか」・・・拾う範囲の分担 「どのようにして拾うか」・・・必要なものは 2時間で話し合いを行い、実行する。</p>
	実行① 16、17	自分が決めたことを実行する。(主イ)
	整理・分析 18	実行のふりかえりを行い、反省点を実行②に活かす。(思イ)
	実行② 19	反省を活かし、自分が決めたことを実行する。(主イ)
	まとめ 20	自分がビオトープのためにやってきたことの振り返りをする。(思イ) ・うまくいったことは・・・ ・計画通りいかなかったことは・・・
Ⅲ、 まとめ表現	課題設定 21 (本時)	<p>自分たちの活動をふりかえって、このあとすべきことを話し合う。(思イ)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>他の学年にもビオトープを大切にしてもらいたい！！</p>
	情報の収集 整理・分析 22、23	誰に、どうやって伝えるか、何を伝えるか考える。(思イ) 伝えることを決める。(発表準備)
	まとめ 25、26	ビオトープをきれいにする活動をこれからも続けてもらうために、3年生に伝える活動をする。(知イ)
	表現 27	これまでの学習をふりかえり、交流する。(主イ)

6、本時について

(1) 本時の目標 (2 1/2 7)

ビオトープをよくするために自分たちが実行してきたことを振り返り、新たな課題を設定することができる。

(2) 本時の展開

児童の活動	教師の支援 (◇) と評価 (※)
<p>1、今までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏の頃よりも、池が見えるようになってきれいにできた。 ・20年前の姿に戻りつつある。 <p>2、今までの活動でできたこととできなかったことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池をきれいにできた。 ・たくさん落ち葉を拾って道を作れた。 <p>3、本時の課題を捉える。</p>	<p>◇これまでの学習を想起させる。</p> <p>◇もうこれ以上実行できないことを伝える。</p> <p>◇これで終わっていいのか問い返すことで、新たな課題を設定する必要感を高める。</p>
<p>これからすべきことを考えよう。</p>	
<p>4、グループごとに話し合う。</p> <p>5、全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの努力だけでは限界がある。 ・きれいにする活動を続けることが大切。 ・一回だけでは意味がない。 ・これからもきれいにする活動を続けたい。 	<p>◇ホワイトボードにこれからに向けて考えたことを書くことを伝える。</p> <p>※自分なりに考え実践したことを考え、伝え合いながら、これからやりたいことを考えている。</p> <p>◇ホワイトボードに書いてあることの理由を明らかにしながら、全体で確認する。</p> <p>◇児童から出された考えの中で、これからのビオトープを考える上で、特に重視したい考えを確認する。</p>
<p>ビオトープをきれいにする活動をつづけることは大切。そのために、3年生や親父の会などに伝えて、きれいにする活動を続けてもらう。</p>	
<p>6、次時の学習を確認する。</p> <p>これからは何をやる必要があるか考える。</p>	<p>◇これからは何をやる必要があるか考えさせる。</p>